

地区名 山の手地区

今年度の取り組み	・地域福祉懇談会（6/6、1/21） ・ふれあい食堂（7/27） ・山の手ふれあいまつり（9/14） ・茶の間移動支援（ふれあいの杜）打ち合わせ（7/10） ・矢代田小学校4年生総合学習（茶の間について6/6、茶の間の皆さんと認知症講座6/20、交流2回） ・歳末見守り事業（打ち合わせ9/17、12/10、訪問12/30） ・舟戸1.2自治会防災（打ち合わせ4/24、6/26、8/15、10/3、11/10、講話4/14、防災訓練9/1）
課題	・茶の間（いこてば こいてば ふれあい会館）の参加者が減少しているが、久しぶりの参加や新規の参加がある月もあり、状況がつかめていない。開催時間の変更等を検討していく。 ・ふれあい食堂は初開催という心配もあり、広く広報が出来なかった。今後は多世代の交流の場として検討していきたい。 ・人知笑会の会員、利用者ともに高齢化している。様々な機会に周知しているが、理解してもらっても会員が増えない。女性会員を増やすことも検討したい。 ・小中学生合同防災訓練では、内容や小須戸地区や各学校との連携に合同で行う難しさがある。 ・ふれあいまつりに保護者を巻き込むことが課題である。ボランティアは多くなってきたが、段取り不足もあり、活動の調整が行き届かない状況があった。
評価	・茶の間移動支援について、ふれあいの杜と打合せを行い、前向きに進められそうである。 ・茶の間と小学生との交流を複数回行い、良い交流ができた。小学生の参加によりボランティアのやりがいにもつながった。小学生と交流できる形を考えていきたい。 ・歳末見守り事業は、対象者の笑顔が見られ実施してよかった。今後は自治会からも関わってもらい、地域の実態を知ってもらう機会にしたい。 ・班ごとの話し合いでは、日頃話をする機会がない人とも真剣に話ができたことで、今後気軽に話し合い、いいアイデアが出てくるだろう。（舟戸1.2 防災訓練） ・地域の方の協力で、不法投棄が改善してきた。駅周辺のごみ拾いも地域の方も行ってくれる。 ・ふれあいまつりを経験した子どもたちが卒業後ボランティアに参加するなど、子どもたちに変化が出てきている。まちがいなく芽が出ている。 ・子どものSOSに応えたり、認知症の方への声かけなど施設が地域で何が出来るか考えたい。そのためにはつながりが大切であり、駅の花植え等に声をかけてほしい。（ほほえみほのか）
活動の様子	
次年度へ向け	・地域の茶の間のいこてば こいてば ふれあい会館の開催時間等の検討と移動支援の施設との協定 ・歳末見守り事業の中学生ボランティアの継続と自治会の関わりの検討 ・人知笑会の後継者育成 ・地域の防災力の向上 ・防災に関する福祉施設との協定の見直し ・小中学生合同防災訓練の実施方法、内容の検討 ・舟戸1.2自治会防災への取り組み継続 ・防災キャンプ開催に向けた部会の連携 ・駅周辺の環境美化の呼びかけの工夫 ・花植えの参加から地域とのつながりづくり（ほほえみほのか） ・ふれあいまつりの保護者の関わりに対するアプローチに向けたSNS活用の検討 ・（自治会ごとで）地域で支えるしくみづくり（ごみ出し等身近な困りごと）

[参加者] 山の手コミ協：横山会長、荏原副会長、保科事務局長（福祉部）五十嵐部長、増井副部長（防災・防犯部）坂野部長、古泉副部長（環境部）高野部長（健康スポーツ部）五十嵐部長（ふれあい事業部）井上副部長 小合・金津・小須戸圏域支え合いしくみづくり会議：栗山構成員 ほほえみほのか：又地施設長 秋葉区社協：横山、藤田